

大分教育事務所訪問②-44 (計117)

大分市立判田小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

本校は、判田中学校と共に、小中一貫教育における目指す子ども像を「互いに認め、思いやりや考えを伝え合い、学びを深める子どもの育成」と定め「大分市小中一貫教育実践発表校」として今年度実践発表を行いました。また、教科担任制推進教員の配置とともに「小学校英語教育推進校」の指定を受けて頂き先進的な取組を推進しています。

また、教室以外で学習に取り組むことができる「ハンダールーム」を整備したり、学校生活のきまり等を教職員間で方向性を共有化したりすることで、生徒指導における未然防止や初期対応に努めています。とりわけ素晴らしいと思ったことは、運動会の取組において、若い体育主任の発案により学年部毎の「ねらい」を職員室に大きく掲示したそうです。そのことにより、教職員が常に「ねらい」を意識した指導を行ったため、効率的な指導ができ、短時間の練習であっても大きな成果があったそうです。

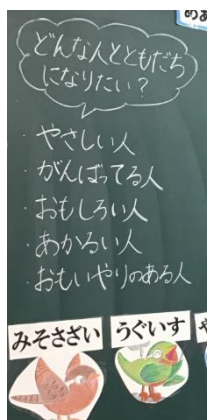
これからも、教職員が何をするという取組指標だけでなく、それぞれの行事や授業においても、子ども達にどのような力（自己表現力）をつけるのかを明確にされ、子どもは何を学び、何ができるようになったかについても分析をすることで、教職員だけでなく子ども達が自らが資質・能力を意識し、成長を感じるようになるでしょう。

授業から学ぶ

今回は、1年生道徳の授業を参観しました。本時案では授業のねらいが明確であり、ねらいに迫る中心発問やそれを補う補助発問の準備、さらに、授業中においては、子どものつぶやきをひろいながら、ねらいに迫るような基本発問も見事でした。

子ども達はきちんとした挙手をして、公の言葉で発表する。聴く子ども達は発言者の方を身体ごと向き、笑顔で大きな拍手をする。良い行為は真似をするが、そうでない場があっても流されない。相手を認め合う学級経営の様子をみることができました。

また、指導案の「振り返り」の記述は、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」にして表記をされていました。今後は、そのような教師が考えた「振り返り」と子どもが実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について協議したりすることで、授業改善がより推進されると思いました。



NO.525 2021年11月 大分市立判田小学校

優しさから

発表する友達へ身体ごとに向けて集中して聴くのは、ルールからではなく優しさから。



NO.526 2021年11月 大分市立判田小学校

ナイス!アシスト

困っている友達のところにすかさず寄り添い、相手の気持ちを引き出す。そんな立ち位置がステキです。



NO.527 2021年11月 大分市立判田小学校

学ぶ空気

教室全体が学びに向かう雰囲気だから、自分も頑張れる。その自分の姿を見た友達も頑張っている。